

特集

エキスパートの内視鏡手術 —コツとピットフォールⅡ

企画者のことば

堤 治*

本企画は前号の「エキスパートの内視鏡手術—コツとピットフォールⅠ」の姉妹編である。先に述べたように。婦人科領域では内視鏡手術の応用が進み、安全で安心な手術として広く普及、定着し、産科婦人科の必修技術として認識されつつある。医学生や初期研修医が内視鏡というサブスペシャリティーの魅力にひかれて産婦人科を選ぶ時代になったといっても我田引水とそしられることはあるまい。

本特集は、日常臨床で実施される主要な内視鏡手術を網羅しており、初心者にとっての入門書として役立つが、主な狙いは執筆エキスパート諸氏の手術手技の実際をお示しいただき、そのコツとピットフォールを開陳願うもので、技術認定医あるいはそれを目指す方々のスキルアップ書として役立つことを目標として企画した。

前号では主に子宮に対する手術を取り上げた

が、今号では、さらに生殖機能の温存にかかわるものを主体とし範囲を広げ、特に、内視鏡手術の普及に伴い認識され始めたピットフォールへの対策についてもフォーカスした。具体的に示すと、子宮内膜症性嚢胞では術後の卵巣機能予備能の低下が問題になるが、逆に手技の向上で改善を求めること、異所性妊娠では腹腔鏡の応用により増加したといわれる persistent ectopic pregnancy を予防する工夫、子宮腺筋症の摘出術では術後の妊娠に際する子宮破裂を予防する工夫などである。また生殖機能改善に直接寄与する卵管鏡：FT、子宮奇形に対する鏡視下手術、卵巣組織の移植による妊孕性回復、男性不妊に対する腹腔鏡下手術について、多くの経験を持つエキスパートに手技・成績をご提示いただいた。

本特集が内視鏡手術の安全で安心な普及さらには技術向上に資することを願うものである。

*O. Tsutsumi 順和会山王病院(院長)